



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## 冬休み そして 次年度に向けて 子どもたちの理解・定着状況に応じた取組を！

### ●●●「できていないところをできるようにする取組」を進めましょう！●●●

今年も残りわずかとなりましたが、コロナ禍という通常の年とは異なる状況の中でも、各学校では年間指導計画を見直し工夫して教育活動が行われてきました。この活動の中で大切なことは、着実に子どもたち一人ひとりの学習内容の理解・定着が進むよう、子どもたちの状況に応じ、課題の改善に向けた取組を進めることです。

県教育委員会では、昨年度3月から本年度10月までの各学年の基本的な学習内容で構成した三重の学-Viva 18弾「たしかめプリント」を下記の学年・教科で作成し、10月下旬に全小中学校に提供しました。

学期末のまとめの学習や冬季休業期間の家庭学習等で「たしかめプリント」を活用するなど、子ども一人ひとりの理解・定着状況を把握し、できていないところをできるようにして、次の学年へとつながる取組を進めましょう。

### 三重の学-Viva 18弾「たしかめプリント」の3つの特徴

#### ①幅広い学年・教科に対応し、個に応じた支援ができる！

学年：小学校4年生・5年生・6年生、中学校1年生・2年生・3年生

教科：国語、算数・数学、理科 ※国語・理科は教科書会社別に作成

※【通常版】と【総ルビ版】を提供 (HP「みえの学力向上県民運動」の「先生のページ」に掲載)

ぜひご活用ください



#### ②使いやすいワークシート！

1 ワークシート 20 か 25 問で構成。家庭学習等で取り組みやすいよう、両面 1 枚に作成

#### ③定着度・傾向がすぐわかる「S-P 表」！

「授業改善サイクル支援ネット」を活用して結果を入力すると、S-P 表に自動入力され提供

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善！

各学校においては、年度当初に立てた研修計画を実践していくことが困難な状況にある中、研究テーマに基づき「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組が進められています。

日々の授業改善に向けて、授業研究を中心とした校内研修を進めるためには、1月から3月にかけて「1年間の振り返り」と「再構築」が必要です。どのようにして今年度の実践や取組を振り返り、次年度の研究構想を再構築していくか、今回はそのポイントについて紹介します。

### ●「研究テーマ」に基づいて実践や取組を振り返りましょう

「子どもたちがどれだけできるようになったか」「先生たちの授業改善がどの程度進んだか」など、研究テーマに基づいて検証することが大切です。「みえスタディ・チェック」や「定期テスト」の結果などの数値に基づいた定量的なデータと、ノートの記事や授業での発言に表れる子どもたちの意欲や思考など、数値化することが難しい定性的なデータの両面から検証し、成果と課題を洗い出し、全教職員で共有しましょう。

### ●次年度に向けて研究構想を再構築しましょう

今年度の成果と課題をもとに、次年度の研究テーマや方向性など「めざす授業研究の姿」を考え、改善に向かう「具体的な手立て」を協議し、研究構想を再構築しましょう。そうすることで、研究のねらいが明確化され、教員一人ひとりの授業改善へとつながることができます。

また、年度ごとの研究構想や計画を立てるにあたっては、中長期的な計画やビジョンを見据えて作成していくことで、継続的な取組につなげることができます。

## 「地域未来塾」 ～地域の力を子どもたちの学習支援に～

子どもたちの学びと育ちを支える取組は、学校のみならず、家庭や地域と連携・協働していくことが大切です。県内各市町で実施されている地域住民や企業等の参画による地域学校協働活動では、授業等の学習補助、部活動の指導補助、学校環境整備、登下校の見守り等、様々な取組が行われています。

全ての児童生徒を対象に、放課後や土曜日、夏休み等に退職教員や大学生等の地域住民の協力により実施している、原則無料の放課後子ども教室、地域未来塾の取組を紹介します。

### 木曽岬町地域未来塾（学習活動、体験活動）

木曽岬町では、平成28年度から学校運営協議会制度を導入し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある園・学校づくり」の一環として、小中学生対象の「木曽岬子ども未来塾」、小学生対象の「土曜チャレンジスクール事業」、「ホリデー教室」を中心として取組を進めています。

#### 木曽岬子ども未来塾学習支援（中学生）

中学生を対象とした学習支援の取組は、平成30年4月から月2～3回程度、金曜日午後6時～7時45分に町立の図書館で開講しています。講師は退職教員を中心に地域住民で構成されていて、町全体で中学生の学習支援の取組を行っています。

11月6日は約10人の生徒が、新型コロナウイルス感染症対策として十分な距離を確保しながら、それぞれの課題（宿題や補習など）に取り組んでいました。参加した生徒からは「学校では休憩時間が短く、納得できるまで質問することが難しいけど、未来塾はじっくり教えてもらえるので助かります。」「図書館の環境は静かで勉強がはかどります。」といった声がありました。講師の先生は「私は地域で育ててもらったと思っているので、少しでも地元へ恩返しできればと思います協力しています。」と話してくれました。



#### 木曽岬子ども未来塾体験活動（小学生）



小学生を対象とした体験活動では、毎年「稲作体験」「巨大かぼちゃづくり体験」「きそさき星空観察会」を実施しています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で苦労もありましたが、対策を講じて実施しています。

10月26日には、きれいな星空のもと「きそさき星空観察会」を実施しました。今年から木曽岬町立木曽岬子ども園の園児から中学生を対象としたため、50人の子どもたちが参加しました。地域の方からのあいさつの後、実際に望遠鏡で月や惑星を観察しました。空を見上げながら、地域の方から、今見ている星の光は1000年以上前のものである等の説明を聞き、子どもから驚きの声が上がっていました。参加した6年生の児童からは「私は天体に興味があったから、自分から申し込みをしました。木曽岬町子ども未来塾は、たくさんの経験をさせてくれるので楽しみです。中学校では理科の授業を頑張りたいです。」、また、保護者からは、「家庭ではできないことを体験させてもらって本当にありがたいです。弟も参加できるようにこれからも続いて欲しいです。」といった声がありました。

来塾は、たくさんの経験をさせてくれるので楽しみです。中学校では理科の授業を頑張りたいです。」、また、保護者からは、「家庭ではできないことを体験させてもらって本当にありがたいです。弟も参加できるようにこれからも続いて欲しいです。」といった声がありました。

木曽岬町の地域未来塾では「学校における働き方改革」の観点から、学校での子どもへのたより配付等の事務作業以外は地域住民を中心に運営をしています。保護者からも「学校の先生は忙しいと思います。できることは私たち地域住民で行い、先生方には余裕をもって子どもと接してほしいと思います。」という声がありました。他の市町でも同じような運営方法が広がってきています。



# 発達段階に応じた読書活動に取り組んでいきましょう！



県教育委員会では、今年３月に「第四次三重県子ども読書活動推進計画」を策定しました。今次計画では、次の３点を基本方針として定めています。

**基本方針 1** 子どもの発達段階に応じて読書習慣を身につけることができる取組の推進

**基本方針 2** 家庭・地域・学校のそれぞれの役割に応じた読書を行う環境の整備、読書をする機会の提供、読書活動の啓発の推進

**基本方針 3** 五感を使いながら子どもの心と身体を育み、学力の基盤を築く読書活動の推進

この中で、基本方針 1 にある「子どもの発達段階に応じた取組の推進」は、新たに掲げた基本方針です。

本県においては、授業時間以外に読書をする児童生徒の割合が依然として全国平均より低いこと、また、全国的な傾向と同様、小学生、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて読書時間が減少しているなどの課題があります。

国の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」によれば、「読書を行わない高校生は、中学生までに読書習慣が形成されていない者と、高校生になってから読書の関心度合いが低くなり遠ざかっている者に大別される」とし、発達段階の特徴を考慮した読書活動の推進が必要であるとしています。

また、国の第四次計画策定時の調査研究データの詳細な二次分析を行った研究※によれば、学校や家庭、友人間で行われる読書活動の影響について、小学校段階では、家庭での読書に関する行動の影響を大きく受け、学校段階が上がる  
と友人間での読書に関する行動の影響が強くなっていくということが明らかにされています。

※濱田秀行, 秋田喜代美. 小中高生の読書に対する学校や家庭, 友人間における行動の影響—学校図書館の魅力に注目して—  
読書科学 2020. 2, vol. 61, no. 3, 4, p. 143-152.

そこで、県教育委員会では、「発達段階に応じた読書活動」として、大人も子どもと一緒に読書に親しみながら、コミュニケーションをはかる「**家読（うちどく）**」の取組（小学校低・中・高学年）と、友人等からの働きかけを伴いゲーム感覚で楽しみながら本を紹介し合い読書への関心を高める「**ビブリオバトル**」の取組（中学生）を推進しています。

## 小学生

### 「家読（うちどく）」

- ・家族みんなで好きな本と一緒に読んで、読んだ本について話し合しましょう。
- ・家読推進プロジェクト公式 HP にはいろいろな取組例が挙げられていますので、ぜひご覧ください。  
<http://uchidoku.com/htdocs/>



## 中高生

### 「ビブリオバトル」

- ・発表者と参加者が意見を交換しながら読みたい本（チャンプ本）を選ぶことにより、「本を通して人を知る・人を通して本を知る」ことができるコミュニケーションツールです。
- ・下記はビブリオバトルについて詳しく分かる HP ですので、ぜひご覧ください。  
<https://katsuji.yomiuri.co.jp/>



## 県教育委員会 今年度の取組

### 「絵本の力」

～絵本でつながる心、絵本で広がる世界～

講師 スギヤマ カナヨ さん

令和３年 １月８日（金）

１４：３０～１６：３０

於 三重県教育文化会館 大会議室

### 「中学生ビブリオバトル２０２０三重決戦」

### 「高校生ビブリオバトル２０２０三重決戦」

令和２年 １２月１３日（日）

中学生 １０：００～１２：００ 高校生 １３：３０～１６：１０

於 三重県総合文化センター

※本年度は中止となりました。



### 人間力を養う深い学び～ICTの効果的な活用～

朝日中学校では、子どもたちに育む力について、①「多様な他者と協働し、新たな『知』を創造する力」、②「思考し、判断し、行動し続ける力」、③「自分の良さや可能性に目を向ける力」こそが「人間力」であると考え、研修主題を「人間力を養う深い学び」と設定し、その実現のため「ICTの効果的な活用」をサブテーマとし、研修に取り組んでいます。

#### ★ 研修の方法とポイント ★

- ★生徒が積極的にタブレットPCを使用するという柱を据えて、教員全員がICT活用を取り入れた授業を公開する。参観者は「ICT活用の視点」からも授業参観シートを記入し、授業者にフィードバックする。
- ★全体研修会として「ICT活用研修」を実施し、事後研修会で「ICTの活用が効果的であったか」について協議する。最後に若手教員が講師となつて、様々なソフトの活用術を、実践を交えてレクチャーする。
- ★特別に設定した公開授業でなくても、普段から授業を見せ合い、OJTを活発に行う。

#### <授業参観シート>

<朝日中授業参観シート> 子どもと授業を大切にする視点から  
【評価欄】今日の授業で特によかったと思うものに○

| 項目       | 評価 | 視点                                                                                                        |
|----------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9 ICT活用  |    | ICTの活用が生徒の興味関心につながっている。<br>ICTを効果的に活用でき、本時の目標達成への近道になっている。<br>ICTの活用が深い学びに繋がっている。<br>生徒のICTの活用スキルが上がっている。 |
| 11 子どもの姿 |    | あたたかい話し方・あたたかい聞き方が身についている。                                                                                |

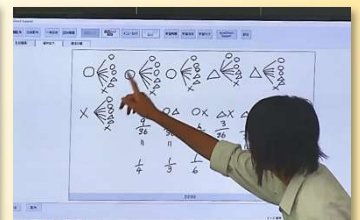
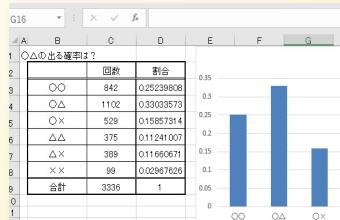
#### ● 研修活動の成果 ●

- 共通の目的のもと、若手やベテラン教員がともに実践と振り返りを日常的に行い、ICT活用を含めたスキルアップが図られた。また、若手教員の意欲的な取組は、大きな推進力となった。
- ICT活用により、授業のねらいに近づく生徒の姿が見られた。
- 学校アンケートの「先生たちは、授業をていねいに分かりやすく教えてくれる」という項目では、生徒の満足度が97.1%となり、生徒は授業が楽しいと感じている。

### ICTを活用した授業における生徒の姿

#### 【数学科】

確率の授業で、組み合わせの出やすさを予想し、エクセルを使って実験結果を共有した。更に「ダイナスクール」を使って根拠の考察を共有、発表した。ICTを活用したことで、実験結果を瞬時に計算グラフ化でき、時間短縮ができた。また、自分たちの意見を主体的に論理立てて発表する姿が見られた。



#### 【音楽科】

歌詞の意味や特徴について学び、どのように歌いたいかを考えさせ、実際に合唱を行った。その際、ボイスレコーダーで録音しすぐに聞き返すことで、自分たちの歌声を振り返ることができた。これにより課題を発見しやすくなり、主体的に改善点を話し合う姿が見られた。

#### 【技術科】

はんだ付けを行う授業では、タブレットPCで作品を写真に撮り、「コラボノート」にアップし共有した。様々な視点で作品の比較をし、良い点と改善点を深く追求する姿が見られた。



#### 【特別の教科 道徳】

デジタル教科書による音読と「コラボノート」を使って授業をした。これにより教員は音読中に生徒の表情を観ることができた。また、各自の意見をコラボノートで共有したことで、仲間の意見がリアルタイムに更新され、道徳的価値について新たに気づく姿が見られた。

#### 朝日町立朝日中学校長からのコメント

本校は、ICTを「まずは使ってみよう」から「どのようにしてより良く使うか」を考え、実践する段階へとステップアップしています。ICTを効果的に活用するために大切なことは、使うことそのものではなく、授業や活動のねらいに向けていかに「有効的に使うか」ということです。利便性も大切ですが、授業者がねらいに合わせて教育的効果があるところを模索し、実践・検証しながら教育活動を進めることで、子どもたちのさらなる学びの可能性が広がっていくことを期待しています。